

2024年度第1回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録については、発言内容を一言一句正確に記録したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

- 日 時 2025年2月19日(水)午後1時30分～午後3時25分
- 会 場 豊岡市役所立野庁舎A会議室
- 出席者 委員13名
- 欠席者 委員3名
- 傍聴者 なし

協議事項

- (1) 第6期及び第7期豊岡市障害福祉計画の進捗状況について 資料1-1
- (2) 第2期及び第3期豊岡市障害児福祉計画の進捗状況について 資料1-2

委員

- ・福祉施設から一般就労への移行人数は、2023年度の数か3年間の数か？

事務局

- ・3年間の累積となる。

委員

- ・医療的ケア児支援のための協議の場を設置したが、2020年8月以降開催していない理由は？

事務局

- ・記録では次の会議の日程も決まっていたようだが、恐らくコロナの影響で流れてしまったのではないか。

委員

- ・施設入所から地域移行者の障害別の数が分かれば教えてほしい。

事務局

- ・今資料がないので会議録で回答する。(→身体3、知的5、精神2)

委員

- ・地域生活支援拠点の話で、阪神間でも親亡き後のことは進められていないと聞く。豊岡市で、施設から地域へ、施設からグループホームへ、といったことで何か考えておられるか。

事務局

- ・地域生活支援拠点については、豊岡市では面的整備で進めていくということを以前自立支援協議会でも報告したことがあるが、具体的には進めていない。また、一言で親亡き後と言っても、それぞれの人生があり環境が違うのでパッケージ的にこうしようと勧められるものはないのが現状だ。

委員

- ・医療的ケア児者支援会議が今後開催される予定はあるか。

事務局

- ・これまでの会議であがっていた課題が次につながっておらず、次の開催ができていない。ただ、その間何もしていなかったわけではなく、医療的ケア児の短期入所のことや、日常生活用具に蓄電池を加えたり、補助制度を作って施設整備も進めている。コーディネーター研修に今日も職員が行っている。大きな動きがあれば、そのタイミングで会議の開催となるかもしれない。

委員

- ・（参考資料あり）医療的ケア児の通学支援の整備状況をまとめたものがある。もし会議があるなら、こういった情報を提供したいし、豊岡市の情報も共有させてほしい。

委員

- ・ある市の計画の会議で、親亡き後の話になった。親亡き後では遅い。親が亡くなる前から考えなければいけないという話になった。
- ・第7期・第3期福祉計画の中で、2024年度の計画値と実績見込に差がない。計画通りに推移している。
- ・放課後等デイサービスが増えてきているので、利用人数×日数で総積算量を出すとか、1人当たりの平均値をとって比較するなどの方法で、来年以降、次期計画にもつなげられる。放デイだけが今後増えるのではないかと気になった。
- ・医療的ケア児の連絡会議のように、会議体がたくさんあるので整理してはどうか。例えば自立支援協議会につけるとか、この計画推進委員会の部会にするとか、まとめてしまうのもありだと思う。

(3) 障害者計画の取組状況について 資料2

【就労環境の充実】

超短時間雇用の推進では、雇用先の募集や訪問を行っているが、なかなか就労につながらない。障害者の就労・雇用に向けてどんな取組みができるか。

委員

- ・企業が理解して歩み寄ってくれるところがあれば、就労に向かえるのではないかな。支援者側から企業に理解を求めることも必要だ。企業の理解があって働く場があって、いい方向に向かっている例はある。

委員

- ・就労に繋がらないとある。仕事をしたい障害者は短期を希望している。企業は中期、長期を希望している。そこが合わない。お互い理解しながらどちらかが妥協しなければならない。

委員

- ・商工会に配ったチラシの効果は？商工会議所には配っていないのか。中には成功事例もあると思うので、ホームページに掲載するというのも効果があると思う。

事務局

- ・チラシは商工会にしか配っていない。効果はまだ分からない。
- ・先ほどの雇用形態の話だが、超短時間雇用の話なので、短期、中期、長期という概念はない。一日1時間でも働く場所を見つけてマッチングしていく。10年ほど前に神戸市、横浜市が試してみて大成功した。企業側が理解を示し、人（障害者）が足りないぐらいだった。それを豊岡でもやろうとしているが、今はノウハウなく企業開拓に回っているの、そこを学び直す必要があると思う。1時間だけ働ける障害者を雇ってくれませんか、ではなく、企業に十分な聞き取りをしてどういった業務でどこが不足していて、この業務だったら正社員じゃなくてもできますね、といったアプローチをしていく必要がある。

委員

- ・働き手が少なくなって、特に福祉分野では人手が足りていない。事業者が、短時間雇用することのメリットを出していく。働く方も自分がしたいことを仕事にできて生活が豊かになったということを発信していく必要がある。福祉分野では需要はあると思う。

委員

- ・雇用形態はアルバイトになるのか。
- ・働ける人はたくさんいると思う。ただ、週に数時間働いたとして一週間の残りの時間をどう過ごすのか。過ごし方が分からない。福祉サービスと超短時間雇用との絡みは？
- ・仕事以外の時間をちゃんと考えないと、生活のバランスが崩れてしまう。
- ・農業分野で、特に繁忙期には人手がほしい。それを本格的な雇用につなげるのは難しい。

事務局

- ・神戸市横浜市のように、就労支援やA型B型と併用しながら超短時間勤務をするというやり方をやっている。

委員

- ・通所サービスの事業所に向けて、制度上サービスとの併用は可能だからもっと気軽に働こう、怖がらずに働いてみようという情報発信を積極的にしてほしい。

【人材育成】

相談員雇用の補助金制度を創設したが目標に達していない。人材の確保・育成について、支援が不足していると思われることは何か。

委員

- ・相談支援専門員が素敵な職業だということを分かってもらえるような取組みができれば。

委員

- ・人材確保は障害分野でも高齢分野でも共通の課題。分野を越えて話し合い共有する必要がある。まず若い人たちに魅力を伝えることが必要。但馬長寿の郷が介護のイメージアップ事業をしている。日高高校生が施設を訪れて、現場の様子をインスタグラムで発信している。(参考資料あり)

委員

- ・このチラシを見ると介護の事業所ばかりだ。福祉志望の学生が、介護と障害を比べるとどうしても介護を選んでしまう。障害の方が予算が少なく、介護の方が安定している。そこを何で埋めるのか。魅力ある現場を見ていただき、知ってもらおう。若い職員がいると現場が明るくなる。ボランティアから就職につながる方もいる。学校へのアプローチも必要。

事務局

- ・ちょうど今、イメージアップ事業の関係で障害サービス事業所にも照会が来ているので、近いうちに案内する。

委員

- ・大学の就職委員長をしていて思うこと。学生に案内するにしても広くチラシを配るのではなく、福祉系の大学だけにするとか、ターゲットを絞った方が成果は上がると思う。

【災害時の備え】

支援している障害者について、日頃からされている災害対応はありますか。

委員

- ・各地区、コミュニティでどんな取組みをされているか気になる。

委員

- ・各区では災害時の取組みはあるが、豊岡のコミュニティではまだこれから。
- ・地区に障害のある子が転入してくるからお願いしますと療育センターから連絡があり、話し合いをしたことがある。子どもが家に一人にいるとき、気にかけてほしいということだった。学校や民生委員とも連携を取るようにはしていたが、一週間ほどで転居してしまった。隣に外国人が住まわれており、生活習慣が違って不安だったからということだった。区長としては、どう対応したらいいか。要望を聞くことはできるが、それ以上求められてもお手上げだと思う。区全体の関わり方が大きな課題だ。

委員

- ・障害者も外国人も言葉の理解が難しい。避難という言葉ひとつにしても説明が必要だ。

委員

- ・359 区のうち 159 区しか個別支援計画を出していないのは、出せないのか、出していないのか。

事務局

- ・対象となる要援護者がいないような小さな区では、個別支援計画が出てこない。おられても支援者が近くにいてしっかり対応できるので区での計画までは作っていないという区もあると思う。

委員

- ・分かりやすい言葉で説明することは外国人・障害者に通じる。防災の話のときに縦割りにすべきでない。ヨーロッパでは地震、台風がないから事象そのものが理解されていない。

委員

- ・各行政区の個別支援計画は、行政の情報をもとに計画作成を依頼するものか。
- ・計画を立てる際、本人への聞き取りもあるのか。

事務局

- ・基本的にはそうだ。いざ災害が起きた時、どういった対応をすべきか、誰が誰をどこに連れていくか、といったことが記載されている。
- ・区長、民生委員だけでなく、家族からも聞き取りをして計画に反映させている。
- ・作成を依頼して、後の運用については区にゆだねている。〇〇区のように対象者が多すぎて一人一人の計画を作れない区もある。

委員

- ・施設の方では、日頃利用している利用者には、水害の恐れがある場合、不安があれば施設を開放して、利用者や家族と一緒に来てもらったらいいいという案内をしている。

委員

- ・難病の人工呼吸器利用者は個別支援マニュアルを作成している。日高病院は今は病床がなくなったので受け入れられなくなった。電源確保ができることが重要。区やドクターを誘って蓄電池を使う訓練をしているところもある。本人や家族が動けるような訓練をしている。

委員

- ・区で作成している個別支援計画というものと、ケアマネや相談員や県健康福祉事務所が作っている個別避難支援計画のようなものはまた別だと思うが、そのあたり豊岡市は取組みをしているか。

事務局

- ・介護のケアプランで災害時のことを書けば加算があるような話はある。障害の相談支援のサービス等利用計画にはそういったことを書くところもなく、市からも計画の中に災害時の対応まで書いてくださいとは言っていない。

委員

- ・各行政区にも働きかけをしていただいているということで少し安心感はある。
- ・やはり支援が必要な方には、ケアマネや相談員に負担はかかるが、個別支援計画との連動といった取組みも必要かなと思った。

事務局からお知らせ

- ・来年度の委員会は2回（1回目は早い時期に）開催予定。4月1日に手話言語条例が制定され、手話言語に関する施策を推進していく。この施策の推進に当たって、推進委員会を新たに作らず、この計画推進委員会の中で協議をさせていただきたい。委員として当事者の参加も考えている。